令和６年　９月５日

令和６年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立明保小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和６年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和6年4月18日（木）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語，数学，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　　８７人

②　算数　　８７人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており，実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

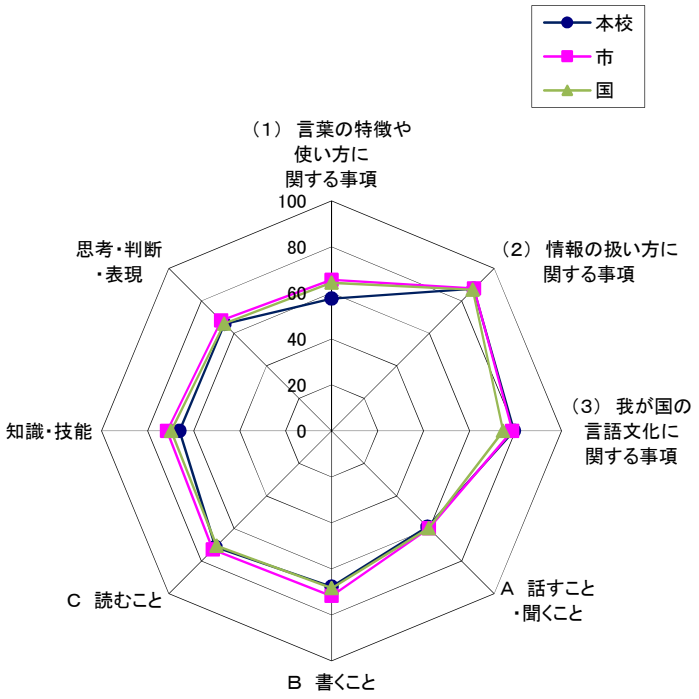
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立明保小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	57.5	65.7	64.4
	（2） 情報の扱い方に関する事項	87.4	87.6	86.9
	（3） 我が国の言語文化に関する事項	79.3	78.6	74.6
	A 話すこと･聞くこと	59.0	59.9	59.8
	B 書くこと	67.8	71.8	68.4
	C 読むこと	71.3	72.9	70.7
観点	知識･技能	66.1	71.5	69.8
	思考･判断･表現	65.8	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

〇良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

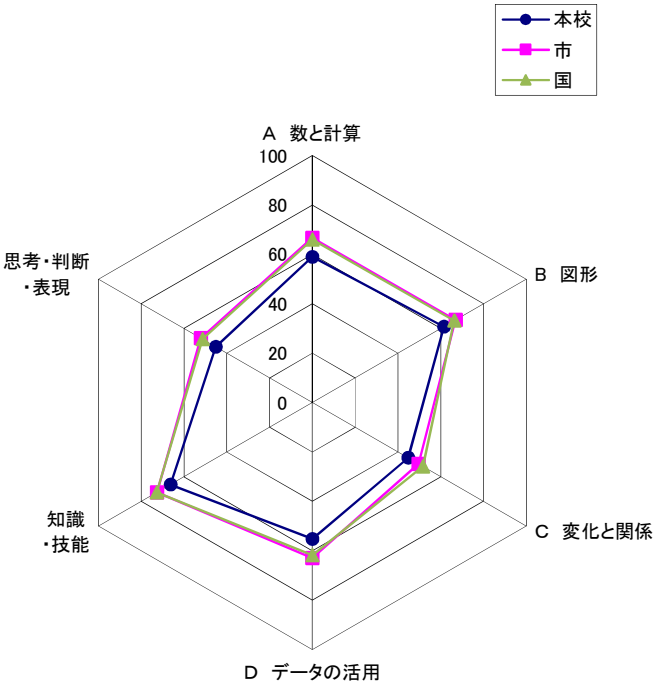
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，全国と比較して下回っている。 〇話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる問題では，全国の平均より4．6ポイント上回っている。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題では，全国の平均に比べて大きく下回っている。また，無回答率も高い。	・漢字の読み書きについては，今後も効果的な指導法を工夫し，個別に支援するとともに，AIドリルや漢字スキルを繰り返し活用しながら文章内で正しく使えるように習熟を図る。
（2）情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，全国と比較してやや上回っている。 〇情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う問題では，全国の平均より0．5ポイント上回っている。	・与えられた資料から分かる情報について正しく読み取り，それらを使って考えることは他教科にも通じる学習の柱と考えられる。教科書をよく読み．文章に含まれている情報を取り出して整理したり，その関係を捉えて活用したりすることができるよう継続して指導していく。
（3）我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，全国と比較して上回っている。 〇日常的に読書に親しみ，読書が，自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる問題では，全国の平均より4．7ポイント上回っている。	・読書の際には，感動した言葉や，新しい考えなどを記録に残すなどして，読書の意義をより強く実感できるようにする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は，全国と比較してやや下回っている。 〇目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題では，全国の平均より0．7ポイント上回っている。 ●目的や意図に応じて，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題では，全国の平均より1．7ポイント下回っている。	・自分の意見をもち多様な視点や考えをもちながら相手の話の内容を捉え，友達と伝え合ったり，話し合ったりする時間を設け，考えを広げたり，深めたりする経験を積ませる。
B 書くこと	平均正答率は，全国と比較してやや下回っている。 〇目的や意図に応じて，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題では，県の平均より2．5ポイント上回っている。 ●目的や意図に応じて，事実と感想，意見とを区別して書くなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができかどうかをみる問題では，全国の平均より3．7ポイント下回っている。	・与えられた資料から分かる情報について正しく読み取り，それらを整理したり関係付けたりすることで自分の考えを明確にさせ，また，自分の考えが明確に伝わるように，文章全体の構成や書き表し方に着目して文章を整えながら書くことができるよう継続して指導していく。 ・書くことに対する抵抗感を軽減できるように，行事などを実施した後などには自分の思いを書く機会を作り，日常的に文章を書くようにする。
C 読むこと	平均正答率は，全国と比較してやや上回っている。 〇登場人物の相互関係や心情などについて，描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題では，全国より3．2ポイント上回っている。 ●人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる問題では全国の平均より2．4ポイント下回っている。	・文章を正しく読み取れるように，文章の内容を丁寧に確認をし，段落やまとまりの要約や筆者の主張などを的確に把握することを継続して指導していく。

宇都宮市立明保小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	59.0	66.7	66.0
	B 図形	61.5	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	44.8	49.6	51.7
	D データの活用	55.2	62.9	61.8
観点	知識・技能	66.3	72.6	72.8
	思考・判断・表現	45.2	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A　数と計算	平均正答率は，全国と比較して低い。 ○数量の関係を、□を用いた式に表す問題については8割以上の児童が正答している。 ●除数が小数である場合の除法の計算問題ついては，全国の平均よりも8．2ポイント低い。	・今後とも文章題については，授業の中で図に表す経験を重ね，立式の意味を考えて問題解決できるようにしていく。 ・計算ステップアップやドリル等を活用し，基本的な計算が正しく解けるよう練習を継続するとともに，計算の手順が理解できるよう，習熟度別学習等を生かして個に応じた指導の充実を図る。
B　図形	平均正答率は，全国と比較して低い。 ○直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係の問題については，全国の平均よりも2．3ポイント高い。 ●球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え，立方体の体積の求め方を式に表す問題については，全国の平均よりも11．2ポイント低い。	・図形の特徴と名称が正確に理解できるよう，授業の中で適宜復習をしたり，ドリル等を活用して習熟を図ったりして定着を図る。 ・立体の体積に関する問題については，立体相互の関係を確認し，今後も基本の定着に向けて練習を継続する。また，児童の状況に応じ，やや複雑な問題も解決できるよう，AIドリル等も活用し，個に応じた指導の充実を図る。
C　変化と関係	平均正答率は，全国と比較して低い。 ○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する問題では，7割近くの児童が正答している。 ●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題では，全国の平均よりも12．6ポイント低い。	・速さの問題では，時間，道のり，速さの関係，活用について再度見直し，さらなる定着が図れるようにする。また，基本的な部分でつまずいている児童には，簡単な問題から取り組ませ，苦手意識の軽減につなげる。 ・速さに関する問題では，関係性を読み取ったり式に表したりするよう，基本的な問題だけでなく，活用問題にも取り組ませていく。
D　データの活用	平均正答率は，全国と比較して低い。 ○簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する問題では，7割近くの児童が正答している。 ●円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題については，全国よりも9．5ポイント低い。	・示されたデータから、表の意味を理解し，必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する経験を積み重ね，苦手意識の軽減に取り組んでいく。 ・ドリル等を活用し，グラフの読み取りの手順が理解できるよう，習熟度別学習等を生かして個に応じた指導の充実を図る

宇都宮市立明保小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「自分には，よいところがある」と回答した児童の割合は53．9％で，全国・県平均を10.3ポイント以上上回っている。また，「先生は，あなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童は，58．4％で全国平均より9．6ポイント上回っている。これは，自己有用感を育む場づくりと認め励ます指導の充実を図り，児童一人一人のよさを伸ばす教育の実践をしてきた成果であると考える。今後も，児童の自信につながる指導を工夫していきたい。
○「道徳の授業では，自分の考えを深めたり，学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の質問に，「当てはまる」と回答した児童の割合が，61．8％で全国・県平均より14．5ポイント上回っている。本校は長年，道徳教育に力を入れており，日ごろから充実した道徳の授業で学んだ成果であると考えられる。今後も，多面的・多角的に考える授業を行い，お互いを認め合う豊かな心を育んでいく。
○「5年生までに受けた授業で，PC・タブレットなどのICT機器を，どの程度使用したか」の質問に、「ほぼ毎日」，「週3回以上の使用頻度」と回答した児童が79．8％と8割近くに上り，全国・県平均の6割を大きく上回っている。これは，日常にICT機器を取り入れた学習活動が定着している成果が表れている。今後も，ICT機器を活用し，学習を深めたり，自己表現力を高めたりしていく。
●「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について，家の人と約束したことを守っているか」の質問に，きちんと守っていると回答した割合が28.1％で全国平均の39.4％，県平均42.8％と比較して11ポイント以上低い。学校で使用方法を再確認し，家庭への協力を呼びかけていく。
●「普段一日当たりどれくらいの時間，テレビゲームをしますか」の質問に「4時間以上」と回答したのは28．1％で，全国・県平均より10ポイント上回った。「1時間以上，2時間より少ない」と回答した割合は，29．2％で，全国・県平均とほぼ同じであった。このことから，ゲームに多くの時間を使っている児童が多いと予想される。今後は，有意義な時間の使い方を考えさせ，他に興味を持たせ，家庭学習や家族の一員として様々な活動ができるように生活習慣の向上を図る。
●国語の「解答を文章で書く問題で，解答しなかったり，解答を書くことを途中できらめたりしたことがあった」と回答した児童は，22．7％と全国平均より7．8ポイントと多かった。自分の考えを分かりやすく表現することの苦手さが表れていると考えられ，今後は，根拠をもとに自分の考えを文の組み立てを考え，分かりやすく書き表す指導の充実を図っていく。

宇都宮市立明保小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の定着	話の聞き方，発表の仕方，ノートの取り方などの基本的な学習スキルの育成。 AI型学習ドリル等の学習履歴を活用した学習支援。	5年生までに受けた授業で，PC・タブレットなどのICT機器を，どの程度使用しましたか」では，週に3回以上と回答した割合が8割近く，全国の平均を大きく上回っている。また，5年生までの授業で，タブレットなどのICT機器を活用することについて，「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」や「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」では，肯定的回答が全国平均を上回っている。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫・改善	「宇都宮モデル」（はっきり・すっきり・じっくり）に基づき授業のねらいを明確にし，課題解決の過程を重視し学習のまとめや振り返りをすることで，学習内容の定着を図っている。	「学習した内容について，分かった点や，よく分からなかった点を見直し，次の学習につなげることができていますか」では，肯定的に回答した児童は8割を超えており，全国平均よりもやや上回っている。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において，書くことの領域の「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」問題では，国の平均正答率を下回っている。	条件に応じて自分の考えを書く活動の充実	様々な機会を捉えて，自分の考えを端的に記述する活動や，複数の資料から目的に合った情報を抜き出してまとめたり，メモを基に文章を書いたりする活動を取り入れていく。また，自分の考えを書く際に，字数や使用しなければならない語句の条件を段階的に増やすなどの提示の仕方を工夫し，条件に合わせ，自分の考えをまとめて記述する力を養っていくようにする。さらに，始めから完璧な解答を求めずに，児童に寄り添いながら思考の過程で励ますことで自信をもたせたり，友達のよい文章を提示して参考にさせたりし，諦めずに挑戦する意欲を高めるようにする。
質問紙調査において，「学校の授業以外に，普段1日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか」に対し，本校の目標とする1時間以上と回答した児童の割合は58．4％で，全国より上回っているが，県の割合よりは下回っている。	家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	家庭学習に継続的に取り組むことができるよう，「家庭学習の進め方」等を活用しながら計画の立て方や内容についての指導を定期的にしたり，「家庭学習カード」に取組内容や時間を記録させたりする。また，家庭との連携が図れるよう，啓発資料等を活用して保護者の意識を高められるようにする。 関心意欲を高める授業を工夫し，家庭での学びにつなげる働きかけをする。